

《活動報告書》第一回とうほく学生演劇祭 ～みる、つくる、つながる～



作 とうほく学生演劇祭

- 0、 はじまりのはじまり
- 1、 とうほく学生演劇祭とは
- 2、 事業趣旨
- 3、 事業概要
- 4、 参加団体紹介
- 5、 審査・賞与
- 6、 関連企画
- 7、 クレジット

目次 Index

0、はじまりのはじまり

とうほく学生演劇祭のはじまりは、この一枚の写真からです。2013年3月、冬の京都に「第三回京都学生演劇祭」を見に行ったことが、この企画設立の端緒となりました。学生同士が同一条件で作品をつくっていること、それを審査員が見て講評をすること、そして学生同士の新たな交流が演劇祭を起点と



京都学生演劇祭 2013
場所：元・立誠小学校

して生まれていることは、当時の私たちにはとても新鮮で、魅力的でした。仙台に戻ってそれから1年がたち、演劇祭に興味のある仲間を集めて実行委員会が発足するのが2014年の1月。まだ名前は「仙台学生演劇祭」。まだ見ぬ「とうほく学生演劇祭」が、産声を上げた瞬間です。

※この活動報告書は、第一回とうほく学生演劇祭で行った企画や、その内容を、まとめたものです

1、とうほく学生演劇祭とは

とうほく学生演劇祭とは、

「みる、つくる、つながる」をテーマに、東北の学生演劇がもっと面白くなって欲しい、盛んになって欲しいという願いからこの演劇祭は立ち上がりました。全員が同じ「45分・素舞台」という条件で作品作りに挑み、東北で一番面白い学生演劇団体を決定します。今回は青森、岩手、宮城から大学・高校演劇の団体計7団体が集まりました。上演はコンペティション形式で、ブロックごとに複数の団体が連続して行います。3名の東北で活躍するアーティストの審査による大賞、俳優賞、そして観客の投票で決まる観客賞が設置され、また大賞受賞団体には、八戸または仙台での作品上演権が与えられます。

(第一回とうほく学生演劇祭Webサイトより引用)

2、事業趣旨

本企画は、東北地方の演劇および舞台芸術の活性化の一端を担うことを目的とする。

上記の目的達成のために以下の三項目を軸とする。

《みる》

普段鑑賞の機会の少ない学生が演劇祭に出品者という形で参加することで、舞台鑑賞をより身近なものにし、学生の鑑賞者が増加するものとする。また、競争相手として他学生の作品を鑑賞することでより批評的な習慣が付き、一観客者としての成長も促す。鑑賞時に他学生から受けた刺激はその後の学生の創作意欲の大きな助けになると考える。

《つくる》

学生が普段受けることのない、観客からの公の評価(観客投票による順位確定)、第一線で活躍するアーティストの評価を受けられることは大変意義のあるものとする。なぜなら、内輪での作品の評価に留まらず、外部のより広い視点からの作品の評価を受けることができるからである。また、作品鑑賞者が明確化することで、自分が誰に対して何を目的として作品を作るのかを意識化できる。ひいては、自分が作品を通し社会にどのようなはたらきかけを行いたいのか考察するきっかけを得られる。

また、現在の自分より経験・能力共に豊富な人々の目線から評価されることで、現状より高いレベルの作品創作のより具体的なイメージが可能になり、向上心の芽生えとなる。

《つながる》

学生たちは演劇祭の一連の行事(顔合わせ、ワークショップ、プレビュー公演、打ち上げ)を通じて、違う地域の学生、他ジャンルで活躍している学生、審査員を担当していただくアーティストなど、様々な人々と出会う。元々自分とは遠い距離にあった人々と出会い、語り合うことで、より自分の経験、能力、活動範囲を広げていくものとする。そういった交流を経て、信頼できる仲間と出会い、新たな創作のきっかけとなっていくと考える。

以上三点は全て、学生たちに対し新たな「刺激」「挑戦」を与えるという点で共通している。そういった刺激を通じ、学生たちがより自らの望むところを明確にし、それに向かい歩み続けていくことを願うものである。

(第一回とうほく学生演劇祭企画書より引用)

3、事業概要

◇ 場所

せんだい演劇工房 10-BOX 宮城県仙台市若林区卸町2-12-9

◇ 本番日時

2014年9月25日(木)～28日(日)

(小屋入り期間 9月21日(月)～28日(日))

◇ チケット

1ブロック 一般 1500円 学生 1000円

通し券 一般 3500円 学生 2500円 (枚数限定)

カムバックツアーゲスト割(通称:思い出割)

※学生演劇に関わるものを持ってきてくれた人学生料金で観劇。

◇ 入場者数 252名

◇ 参加費 各団体 25,000円

◇ 上演形式 (参加団体顔合わせ資料より引用)

上演時間は1団体45分間とします

上演時間の意図的な超過はペナルティの対象となる恐れがあります

上演は3団体もしくは2団体を1つのブロックとし、連続での上演を行います。

本番の転換では仕込みに10分・バラシに5分を基本とし、1団体目の上演中に2団体目はbox-1の外で待機していただき、1団体目が撤収を完了すると同時に転換を行っていただきます。

開場中、転換、公演後は舞台と客席の間の緞帳を閉め、客席から舞台が見えないようにします。

○ 舞台効果について

上演形態の都合上、舞台効果については以下を原則とします。

装置・・・配布する舞台図参照

道具・・・転換時間内に収まる且つ、box5の指定された範囲で保管できる量

照明・・・○上演及び作品づくりにあたって の部分参照
 音響・・・○上演及び作品づくりにあたって の部分参照
 映像・・・プロジェクター/スクリーンはこちらで用意いたします。
 (ただしプロジェクターは1台、スクリーンは黒布)

※音響、照明、映像のオペレーターについては、各参加団体で手配をお願いします

◇ 上演および作品づくりにあたって

仕込み図の決定について

各団体は本日配布した基本仕込み図を元に、8月21日までに音響・照明の仕込みの要望を提出ください。提出に際しては仕込み図に纏めていただいても、求める効果を文章などで伝えていただいても構いません。

小屋入り後の予定について

各団体とも21～24日の間に場当たり稽古とゲネプロを行います。

25～28日の公演スケジュールは配布した資料の通りとなります。各団体の小屋入りは所属するブロックの開演2時間前を目処とします。また、当日の小屋入りの後に各団体に最低15分の舞台解放を行います。機材のチェックなどはこの時間に行ってください。どちらも、詳しいスケジュールは後日に決定・連絡致しますので、予定を空けておいて下さい。

とうほく学生演劇祭本番タイムテーブルbox-1(日付・上演表記形式改訂)								9月11日 稲垣哲哉	
TIME	9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日	9月29日
9:00									
9:30									
10:00				調整		調整	調整	調整	
10:30		閉会式 場当たり・ゲネ	C キョウシュウ 場当たり						
11:00				Cブロックゲネ					
11:30									
12:00									
12:30						Bブロック開場	Bブロック開場	Cブロック開場	
13:00					調整	B おせち 上演	B @ 上演	C わらしっこ 上演	
13:30	A 東北大学 場当たり	B おせち 場当たり				B @ 上演	B かつば 上演	C キョウシュウ 上演	
14:00				B かつば 場当たり		B かつば 上演	B おせち 上演	アフタートーク	ARCT羊煮会
14:30								Cブロック客出し	
15:00									
15:30						Bブロック客出し	アフタートーク		
16:00							Bブロック客出し		
16:30	A 宮城教育大学 場当たり	C わらしっこ 場当たり							
17:00									
17:30							Aブロック開場		
18:00							A 東北大学 上演	講評会・閉会式	
18:30									
19:00				Bブロックゲネ	Aブロック開場	Cブロック開場	A 宮城教育大学 上演		
19:30	B @ 場当たり	Aブロックゲネ			A 宮城教育大学 上演	C キョウシュウ 上演	A 宮城教育大学 上演	打ち上げ	
20:00					A 東北大学 上演	C わらしっこ 上演	アフタートーク		
20:30							Aブロック客出し		
21:00					Aブロック客出し	Cブロック客出し			
21:30									
22:00	退館								
22:30									
23:00									

◇ 舞台装置の保管について

9月21～28日の間は
各団体とも 10-BOX の
box-5 に舞台装置を保
管することができます。た
だし各団体の割当スペ
ース(2727 mm × 1818 mm)
に入る量までとします。



(別紙「せんだい演劇工房 10-BOX box-5 平面図」を参照)



4、参加団体

《Aブロック》

宮城教育大学演劇部

『コンビニ・ブルース』

◇キャスト

新井郁、高野亮介

たかはしかずま

◇スタッフ

作:辻野正樹(※既成台本)

演出:もっこり

舞台監督:くまづいもこ

舞台監督助手:荒井七海

装置・小道具:成田柴野、滝田怜美



衣装:杉本真理

小道具:成田柴野

音響:相田直弘、近藤菜保子

照明:高橋真優、森山紗莉

◇あらすじ

深夜のコンビニのバックルーム。お客さんは、全く来ないので、アルバイトの二人はダラダラ。そこへやってきたのは、コンビニ強盗。もみあううちに、強盗は気を失ってしまう。「俺たち、強盗を撃退したヒーローだぞ！」と得意になる2人だったが、事件は意外な方向へ。



◇演出インタビュー抜粋

「宮教演劇部って全然‘名’が知られてないんですよ。一本公演とかでも、お客さんの数を見ても『物足りないなー』と思うことがいっぱいあるんですよね。」

「自分はなんでしょう、不器用なので、ていうか、笑う以外で楽しむ方法が無いんです。感動するような映画を見ると損した気分になっちゃうというか。」

「万人におけて。万人におけて笑いを伝えたいです。」



東北大学学友会演劇部

『ファイナルカウントダウン』

◇キャスト

岩崎航、榎本裕友、大橋秀樹、
加藤幹子、小山允久、佐藤智哉、
武長慧介、吉本紗希子



◇スタッフ

作・演出:鈴木あいれ

舞台監督:松井歩

本番管理:竹内裕哉

稽古管理:武長慧介

制作:岩崎航

美術:榎本裕友、小山允久、竹内裕哉

照明:吉本紗希子

映像:大橋秀樹

音響オペ:佐々木凜佳

照明オペ:早坂友紀

◇あらすじ

冬の学生寮。帰省するでもなく大掃除でもなくただこたつにつきさきさってたらだら過ごす学生たち。ところが突然壁に現れた「45:00:00」という謎の文字。「っていうかこれ、0になるとどうなるんすか？」「どちらかとい



うとネガティブなカウントダウンですか？」「いや、それはちょっと言いづらい感じで」「それがもうネガティブの感じじゃないですか！」「もうこの辺からネガティブ湧きでてるじゃないですか！」果たして物語の結末は。というかそもそも結末って何だ？舞台と現実がリンクする、カウントダウンコメディ！

◇演出インタビュー抜粋

「コメディは、僕は笑われることだと思います。笑わせると、笑われるは全然違うと思って、それこそ、笑われることでしかコメディは成立しないなと思うので。」



「人間にどうしようもないものは、舞台上で扱いたいなっていうのがあって、そういうのは一個舞台上にあるといいな。」
「しょうもないことを全力でやっていきたいです。」

《Bブロック》

劇団おせち

「普通サクラって言うのは…」

◇ キャスト

熊谷有夏、高野秀佳、
丹野葵、星文佳、松崎あゆ
み、山田怜子

◇ スタッフ

作・演出・音響：佐藤晴香

舞台監督：丹野葵

照明：工藤愛



◇ あらすじ

桜の下には死体が埋まっ
ているそう。まあ、実際に見
たことはありませんが、この中
の一本ぐらい埋まっているか
も。と、そんなことは横に置い



といて、そこは俺の花見席だ！どけるんだ！でないと、新商品を貴様に売り付けるぞ！

◇ 演出インタビュー抜粋

「(劇団おせちについて)最初は、宮学生だけでやろうかって話になってたんですけど、他の学校にもやりた
いけど人数が集まらないって言う人がいて、なんか、
実行委員会のほうで(その



人たちと)つながらせていただいてできたグループですね。」

「誰にでも見て欲しいなって言うのはあるんですけど。主人公が、結構無気力計男子なんですよね。だから、主人公に似た無気力な人に見てもらいたいな—ってというのが。」

「(次回以降演出をしたいですか?という質問に対して)もう役者をやりたいです。戻りたいです。もう演出はつらいです。」



@

「STORY TELLER」

キャスト 大津美咲 土樋輪英

スタッフ

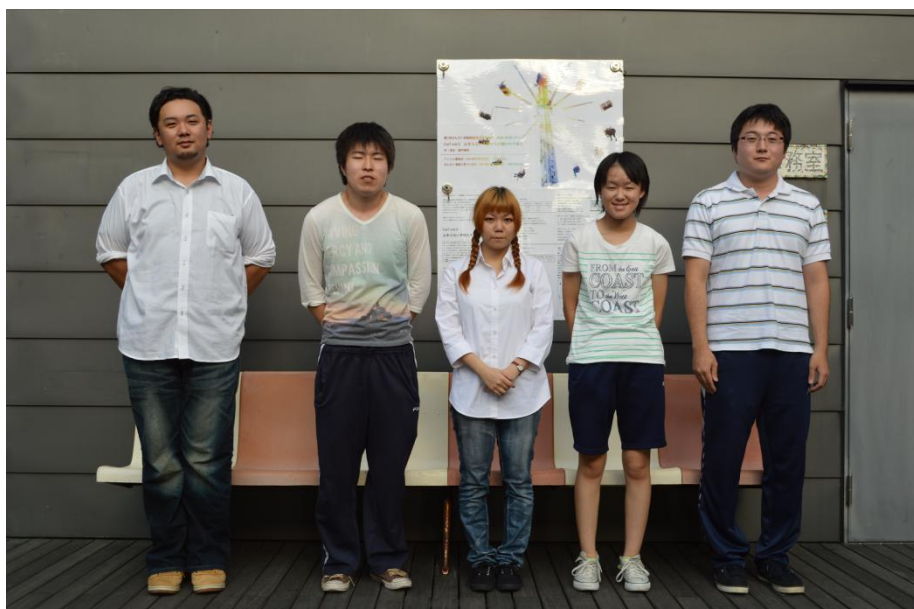
演出・舞台監督:宍戸雅紀

舞台監督補佐:菅原真也

小道具:白鳥美穂

音響:田中達也

照明:吉田百伽



あらすじ

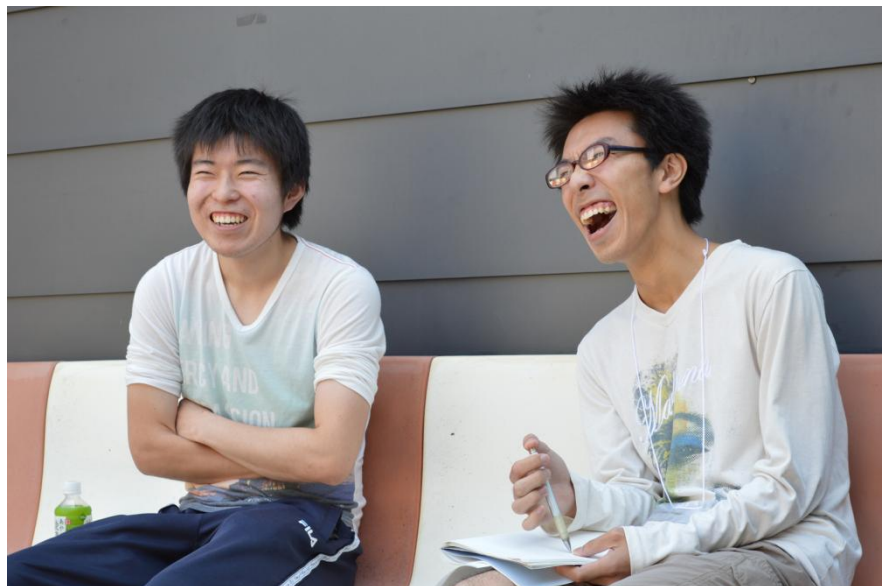
売れっ子小説家を夢見る男女。大学を卒業して数年。就職するわけでもなく夢を追い、ただ書いて書いて書き続けてきた。そんな日々限界を感じていた2人に一本のペンが届く。



その日を境に2人の物語は書き換えられていく。

◇ 演出インタビュー(抜粋)

「学生演劇は、どうしてもやっぱり勉強ってものとの二つを抱えてるってことになんじゃん。だからそういう意味では、若干役者の質みたいなものは、やっぱりちょっとおとってしまう面って言うのはあるかなって思う。だけど、なんか、学生演劇はそれをカバーできる何かを持っている気はする」



「簡単に言うと、突然訪れた幸福に対して、僕たちはどう向かうか」

「ほかの団体もみんな見たいですね。(リハーサルで)見られなかったも

のも。面白い団体がめっちゃくちゃできれば俺もすごくうれしくて、週末の楽しみが増えるし…って感じかな」

劇団かっぱ

「ホープモアホームレス」

◇ キャスト

伊澤茉那 工藤直樹 鈴木晴日

千倉健太 吉田直登

◇ スタッフ

作・演出:村田青葉

舞台監督:黒瀬晴加

小道具:大條絢香

音響:田村広子

照明:皆川泰亮



◇ あらすじ

サッカー選手を夢見た彼は、今頃新聞の契約を取るために走り回っている。アイドルを夢見たあの子は、社長の機嫌を取るためにお酒を注ぎ、お笑い芸人を夢見たアツは、今日も似合わない背広を着て、普通の会社員になることを夢見た僕は…ホームレスになっていた。



◇ 演出インタビュー(抜粋)

「いつもだったら岩手でやっているのが、まったく知らない人たちにってもらって機会も経験になるのかな、試してみたいなって言う気持ちがあったので参加しました。」



「見せたいかって言うようかは、見に来てもらいたいかという感じですね。」

「東京に住んでた時期がありまして。その時期にちょうど良く、ホームレスを見かけていて。そこで思った疑問とかがそのまま作品の中にもうつされているかな」

《Cブロック》

演劇ユニットキョウシュウ

「駆け込み訴え」

◇ キャスト

猪股修平

◇ スタッフ

演出・舞台監督・照明:鈴木匡兵



◇ あらすじ

「申し上げます。旦那様。あの人は、酷い。酷い。」

今まで旅を共にしてきた師への深い愛情と憎悪の心……。その男は師に対する愛憎うずまく胸の内を独白する。その男の名は……。人間の嫉妬や愛情、



秘めている裏の感情を凝縮させた太宰治の短編小説を劇にし、今、あなたの元へ…

◇ 演出インタビュー(抜粋)

「コアな部分は修平に任せて、
(演出としては)ユダの人としての
感情に触れたいという。逆に信
仰的固定観念が無い方が、
人、要はその、観客に共感させ
る、追体験させる上ではいいの
かなっていう。」



「高校生二人だけって、年齢低い方じゃないですか。挑戦としては面白いかなっていう。…
面白さでしか動いてませんね。」

「文字としてはそういう風に、文章としてはそういう風に見えるんですけど、そこにその人としての感
性を合わせた場合にどういう風にうつってくるのかという。台本も同じなんですけどね。でもそこは、
より今回の方が問われるのかな、とは思ってますね。」



劇団「わらしっこ」

「ループッ」

◇ キャスト

清藤大輝 村下直光 矢幡

健人 吉田彩香 吉田淳



◇ スタッフ

代表: 矢幡健人

作・演出: 村下直光

舞台監督: 吉田彩香

音響: 伊藤弘迪

照明: 相馬正宗

◇ あらすじ



ある日、1人の青年はとあるノートを拾う。このノートに願い事を書いたら本当になる！？突然現れたノートが変わらぬ日常を変えていく…！！

◇ 演出インタビュー(抜粋)

「完ぺきを求めたら多分俺が演出ちゃんとやって、『ここがこうくるんだ』とかいえば多分一番ベストなんですけど、俺は絶対そうしたくなくて。」

「あの、せっかく仙台でやるんですから、そりゃあ、自分たちの色を出していきたいなって。自分たちにしかできない台本で勝負しようっていう。後からも先からもこの場でしか見れない作品だと思うんですよ」



「大学で今の自分の演技は成長したのかしてないのかわかんないですよ正直。わかんないのでこれに参加すれば少しは見えてくるのではないのかなど。自分がどこまで成長してどこまでこう逆に退化したのかと。それが見えてくるかなって思ったので参加したいなって思ったんで



す。」

5、審査・賞与

【審査方法】

①大賞・俳優賞

9/28(日)の最終ブロック終了後に1時間半の審査会を設けます。

その審査会にて、実行委員会立会のもと、3名の審査員による討論を行っていただき、実行委員会が定めた審査基準(後述)により受賞団体、受賞者を決定します。

審査会終了後に、講評会にて選考過程とともに受賞団体、受賞者を発表します。

②観客賞

お客様一人につき、1点から10点までの持ち点が与えられます。

作品鑑賞後にお客様に作品への点数をつけていただき、その点数を集計し、各団体の得点を算出します。

例えば、劇団おせちの得点を決める際には

$(\text{劇団おせちの得点}) = (\text{劇団おせちの作品を見た人の総得点}) \div (\text{劇団おせちの作品を見た人の数})$

上記の計算をします。

各団体の点数を比べ、一番高い点数を得た団体に観客賞を授与いたします。

【審査基準】

①大賞

○演出力、作家性、社会性

・作品が練り上げられている ・この時代、ここで発表する意義がある

・作品の発表対象が内輪に留まらず、社会にコネクしている

○完成度:演出意図が作品全体に浸透している

○将来性:今後、東北・日本の舞台芸術を担い立つ人材を生み出す可能性がある

以上三点を満たす、あるいは極めて秀でている点をもつ団体を「東北の代表」とし、大賞を授与いたします。

②俳優賞

○技術、センス:全国で通用する技術、センスを持つ

○エネルギー:学生らしい、エネルギッシュでパワフルな表現を見せる

以上二点を満たす、あるいは極めて秀でている点を持ち、作品の成立に深く寄与している俳優に、俳優賞を授与いたします。

一般のお客様には、観客賞審査の際に、お客様それぞれの目線から作品を審査していただきたいため、受賞者発表の際まで審査基準は公表いたしません。

【審査員】

澤野正樹（さわの まさき）【審査員代表】

1987 年生まれ、秋田県出身。大学卒業後すぐに「仙台シアターラボ」に所属、舞台作品への出演のみならずワークショップ等のアウトリーチ活動も精力的に行い、震災後には、若手有志と共に演劇パフォーマンス集団「短距離男道ミサイル」を立ち上げ、同団体の全ての作品の演出を担当している。演劇のみならず、ダンス等の他の舞台芸術分野への関わりも多く、そこから抽出したジャンルレスかつフレキシブルな演出スタイルには出演者の魅力を最大限以上にまで引き出す力がある。日本演出家協会主催の若手演出家コンクール 2013 においては、東北初の優秀賞を獲得し、東北の舞台芸術を牽引する若手アーティストとして今後の活動が期待されている。2013 年より ARCT 代表。

磯島未来（いそじま みき）

ダンサー・振付家。八戸市出身。幼少よりモダンダンスを習う。上京後「黒沢美香 & ダンサーズ」「ピンク」メンバーとして全国各地、あるいはアジアにまで踊りにいく。日本女子体育大学・舞踊学専攻卒。08 年度文化庁在外研修員として 2 年ベルリンに滞在。帰国後は自身が主宰を務めるグループ「未来.Co」を立ち上げて「オーロラに旅」「また、28日後」を横浜・東京で上演。またダンスをしたことのない人とダンスを生むコミュニティダンス作品にも定評がある。2013 年より仙台市在住。

田中勉（たなか つとむ）

青森県八戸市在住。スペースベン主宰。平成 6 年から、狭い空間ではあるが、多目的スペース「Space BEN」にて、毎週金曜日の夜 7 時 30 分から、約 30 分の演劇、ライブ、ダンスなどを楽しんでいただく企画、FANS(Friday Amusement Negative Shop)を開催。FANS では、新作の演劇を上演したり、上演が無い場合は「集う場」として場所を提供し、実施回数はこれまで通算 1,000 回を超える。最近は、受付・音響・照明・出演をすべて一人でやる、「ひま人 DJ 編」シリーズを上演。また、平成 24 年 10 月に開催された「第一回はちのへ演劇祭」では、制作、舞台監督を務める他、地元の各種ダンス公演等の舞台監督も数多く担当。

【賞品】

①大賞

正賞:トロフィー、賞状 副賞:「仙台あるいは八戸の劇場での作品発表権」

(A)せんだい演劇工房 10-Box(仙台市)

(B)SPACE BEN(八戸市)

上記二か所いずれかで公演を行う際の劇場利用料免除+実行委員会による制作広報協力

※公演実施の期限は演劇祭終了後1年以内です。権利の授与ですので、作品発表は強制ではありません。お使いいただくかは、各団体内でご検討下さい。

まだ出会ったことのない人々に作品を見せたいという方、新たな土地で作品を発表したいという方、そんな方々の後押しになることを願い、設置された賞品です。

②俳優賞

トロフィー、賞状

③観客賞

トロフィー、賞状

【ペナルティ】

意図的に上演時間を超過するなど、悪質な違反の場合、すべての賞に対して審査対象から除外する場合があります。

《以上、参加団体顔合わせ資料より引用》

6、関連企画

《本番前》

【参加団体向け説明会】

どうほく学生演劇祭というからには、東北6県すべてで説明会を実施するべきではないか？という投げかけのもと、委員が東北各域に散らばり、説明会応募のあった5県で説明会を行いました。



【演劇祭のこれまでとこれからを考えるトーク企画】

「どうほく学生演劇祭」を実施するに当たり、先の見えない実行委員に向けて、京都で学生演劇祭を実施している沢さん、それから仙台にこれまでどんな演劇祭が生まれてきたのかを八巻さんに、それぞれ語っていただくことで、私たちが企画するこのイベントからどんな効果が期待できるのか、そういったことを共有する機会として設置されました。

日時:2014年7月27日(日) 場所:せんだい演劇工房10-BOX box-3

トーク企画①「京都学生演劇祭って何？」

話し手:沢太洋氏

トーク企画②「仙台での演劇祭」

話し手:八巻寿文氏



【事前リハーサル】

演劇祭に参加するに当たって、事前に本番に近い状態で劇場を使ってもらい、よりよい創作に役立ててもらおう、という意図を持って行われました。短い時間ではありましたが、各団体充実した時間を過ごしてもらいました。



日時:2014年9月8、9日 場所:せんだい演劇工房 10-BOX box-1



《本番期間中》

【開会式】

7団体そろっての開会式は演劇祭全体の初日、9月25日(木)の夜公演の一番初めに簡易的ではありますが行われました。それぞれの団体にひとことずつ、意気込みなどを語ってもらいます。



【審査員によるアフタートーク】

本演劇祭を審査していただく三名のアーティストに、まずは観劇直後のそれぞれの率直でフレッシュな感想を伺いました。



【講評会】

全作品の上演終了後、審査員による審査が行われました。その後、参加団体において、賞与の発表および、各団体への講評とコメントが送られました。



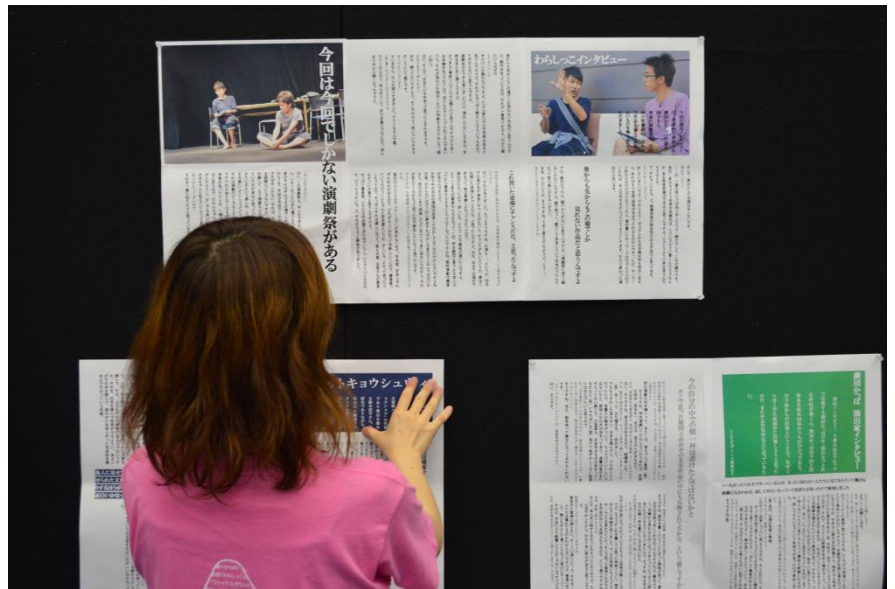
【交流会】

交流会はARCTとの共同開催になりました。山形風芋煮、仙台風芋煮を中心としたフード、アルコールも含めたドリンク類は食べ放題・飲み放題で、場所は 10-BOX のウッドデッキにて行われました。これまでなかなか交流を深められなかった全団体がお互いに話をするのできる時間でした。



【みちのくBOX】

せっかく演劇祭っていうくらいなんだから、上演だけじゃなくてなんかスペシャルなことやろう。という思いつきで、先に会場となる box-2 だけを抑えてしまったこの「みちのくBOX」。まさか、こんな風な企画に



なるとは思いませんでした。東北の学生演劇のこと、仙台で土地をまなざした舞台芸術活動を行っている人、団体、組織のこと、そして、それらをつなぐどうほく学生演劇祭のこと。大仰に言えばみちのくBOXは、どうほく学生演劇祭の『みる、つくる、つながる』という標語の、「つながる」を可視化する展示企画なんだと思います。仙台のこと、東北のこと、知らなかったことがあって、もし一つでもここで知ることができたなら、これ幸いです。開演までの暇つぶしに、どうぞ良いひとときをお

過ごしてください。

(みちのくBOX 宣誓文より引用)



7、クレジット

【第一回とうほく学生演劇祭実行委員会】

実行委員長	朽木雄介	(東北大学)
制作	工藤麻美子	(宮城教育大学)
	佐々木遥香	(宮城学院女子大学)
	石原一樹	(尚絅学院大学)
	高橋礼奈	(宮城学院女子大学)
広報	佐藤美星	(東北学院大学)
	広谷穂里	(東北芸術工科大学)
	鎌田健斗	(東北学院大学)
	渡部菜緒	(福島大学)
企画	中村大地	(東北大学)
	古川さや香	(東北学院大学)
	及川寛江	(東北学院大学)
渉外	白石桃子	(宮城大学)
	原知哉	(東北大学)
	相澤光世	(東北福祉大学)
テクニカル	稲垣哲哉	(東北大学)
	及川義史	(尚絅学院大学)
会計	嶋貫綾香	(宮城教育大学)
	後藤めぐみ	(宮城学院女子大学)
アドバイザー	澤野正樹、小濱昭博、村岡佳奈	

【協力】(順不同)

せんだい演劇工房 10-BOX、ARCT、boxes.lnc、C.T.T.sendai

第四回京都学生演劇祭実行委員会